

実力阻止へあけ 学生大会の開催を

10.26

もはや事態の進展は、学生である我々の力と能力以外、解決の道途を明示しえないことを明らかにした。明治大学が大学の名を冠する限りにおいて、我々は学ヒ値上が、現在の明治大学の諸々の矛盾を深化し拡大する道ではあっても、何ら解決する道ではないことを明らかにし、就中、現理事会の駿台荘の件、札幌大学の件、学生買収互作の件、学生労働互作の件等々の一連の事実が示す、経営に対する無方針、教育の保障に対する無責任が、屋明大人の前におきかになった現在、一切の「責任」を学生に転嫁し、学ヒ値上でもって現状を安易に乗り切ろうとする事の疑暗性を逸れし、直ちに学ヒ値上の白紙撤回をもって、責任の所在を明らかにし、我々学生に対する「誠意」を示すことを要求してきた。

数度にわたる、対理事会大衆田交は件に、明治大学が大学であり、教育・研究でなければならぬということを中心として行なわれてきた。しかしながら昨日(25日)の田交に於いて、彼らが終始一貫してとりつづけてきた、理事長、総長を出席させず、責任ある発言を一切拒否するという態度を、破廉恥にもまたまた用い、時間をかせぐ向に裏面で自らの陰謀を推し進めようとする姿を露骨に示し、自らの破産をあますところなく表明した。

写や明治大学に於いて、事態を正しきつめ有効に対処しよう者は、我々学生をおいて他にはない。事態解決の一切の鍵は、我々学生にあり、学生のみにある。

我々は、三十九年秋、生田地区農学部に於いて、理事会、教授会が共に自らの私利私欲や近視眼的対応の爲、学部再編成の機運を喪失する中で、学生自らの力によって、ストライキでたちあがり、学生不在の危機的(状況)を克服し、現在では教授会との連帯の下に、学部再編成の事業を進めている。その現象的結果こそ、今年雇入学生の定員厳取→「教育の保障」の再構築に他ならない。

学生の実力行動による危機打開以外に 道はない。

我々の力と能力による以外、事態の一切の解決の道がない以上、我々は直ちに、その力と能力の早急な組織化が要請されるであろうし、和泉・生田で突出して、斗争委員会や研究会を組織し、斗争の炎を上げている諸君のエネルギーを、屋明治大学へと広げると共に、理事会の学ヒ値上げ説明会への出席を拒否した、農学部教授会の消極論を更に積極的値上及び対へと転化するよう学生教授が共に突き進むことによって、学ヒ値上白紙撤回を勝ち取らねばならない。

屋明治の学友の最終的結集は、学生会の最高意志決定機関である、学生大会である。現在のクラス、サークルに於ける斗争委員会、研究会を背景に、学生大会を実力行動の場として勝ちとり、我々の力による解決を一日も早く計らねばならない。

屋明治の学友諸君、我々の手による解決を!!

学ヒ値上「白紙撤回」を勝ちとろう!!

最後まで闘おう!!

学生会中央執行委員会